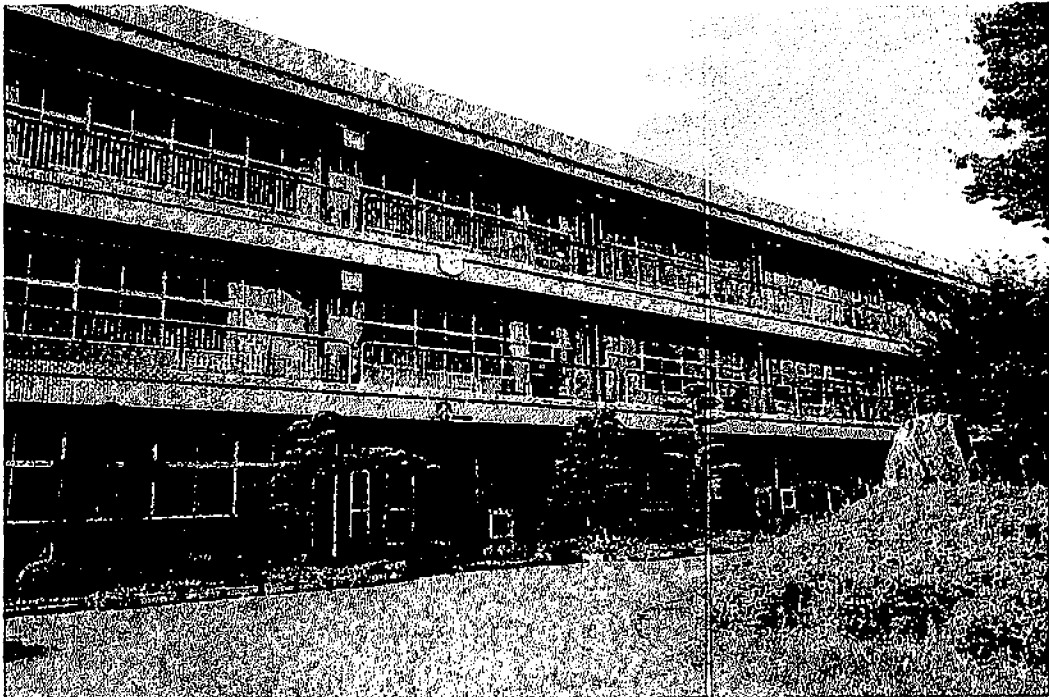


平成30年8月28日

第68次 印旛地区教育研究集会
国語科「読むこと」分散会提案資料

研究主題

活用する力を育成する国語科学習指導



目次	ページ
1 研究主題 -----	1
2 主題設定の理由 -----	1
(1) 今日の課題から -----	1
(2) 学校教育目標から -----	1
(3) 児童の実態から -----	2
3 研究仮説 -----	3
4 実践例 -----	4
実践例1 -----	4
実践例2 -----	5
実践例3 -----	6
実践例4 -----	7
実践例5 -----	8
実践例6 -----	9
実践例7 -----	10
5 成果と課題 -----	19

1 研究主題

活用する力を育成する国語科学習指導

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

今の子ども達が大人になった時、社会は今まで以上に激しく変化していくことが予想される。さらに情報化は進み、たくさんの知識を覚えていることより、調べたことを使って考え、情報や知識をつなげて新しい考えを創造する力が必要になる。これまでは、「何を知っているか」が実生活上重要視されてきたが、これからは、それを使って「何ができるか」「いかに問題を解決できるか」が問われるようになる。

平成20年の中央教育審議会答申では、「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることを一層重視すること」が提言され、「生きる力」の育成ために言語活動の充実が求められた。本年度より移行期間に入る新学習指導要領においても、「何を理解しているか、何ができるか」、「理解していること・できることをどう使うか」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という資質・能力の育成が求められることとなった。

また、平成28年度全国学力・学習状況調査では、主に活用の力を問う国語B問題の正答率が58%であった。前年度の65.6%から大きく低下しており、活用する力の育成は大きな課題となっている。

(2) 学校教育目標から

平成29年度安食台小学校教育目標

『確かな学力を持ち、創造力・実践力のある心身ともにたくましい子どもの育成』

「確かな学力」は、「生きる力」の知的側面であり、「基礎的な知識を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力」である。したがって、「創造力」や「実践力」も「確かな学力」に含まれるが、本校では特にこの二つの力の育成を目指すことが「確かな学力」の獲得につながると考え、目標に掲げている。

国語研究部では、「創造力」「実践力」のもとになる力は、「活用する力」であると考えた。つまり、すでに身に付けている知識や技能を活用して新たなものを作り出すことが創造力であり、また、変化の大きいこれからの社会で必要とされる実践力は、多様な知識と技能を活用する力が必要だということである。したがって、「活用する力」を育成すれば、「創造力」と「実践力」も同時に養われ、「確かな学力」の獲得につながり、学校教育目標を達成できると考えた。

(3) 児童の実態から

〈実態調査〉

・学力検査における「読む能力」正答率

	千葉県標準学力検査 (平成28年度)	学校選定 ワークテスト
3年生	62.1%	90.2%
5年生	57.8%	85.1%

※「3年生」「5年生」は平成29年度の
の研究対象学年である「4年生」「6
年生」と同じ児童

※3年生は19名、5年生は20名が
対象であり、29年度も同。

ワークテストは、授業で取り上げた教材文が問題に使われており、ほとんどの児童が高い正答率になっている。しかし、習っていない、見慣れない文章から出題される県標準学力検査では大きく正答率を下げている。このことから、教材の内容についてはよく理解しているが、汎用的な読む能力の獲得に結び付いていないということがわかった。

〈「活用する力」についての意識調査〉平成29年4月実施

「国語で学んだことを他の場面で生かしてみたいと思いますか。」

	とても思う	少し思う	あまり思わない	思わない
4年生	36.8%	21.1%	26.3%	15.8%
6年生	50%	45%	5%	0%

意識調査の結果から、「国語で学んだことを他の場面で生かしてみたい」と答えた児童は、4年生では約58%、6年生では95%になり、意欲の面では高い割合と言える。同時に行った「国語で学んだことをどのような場面でどのように生かしたことがありますか」という記述式の質問には、4年生は「漢字」や「言葉づかい」、「作文」で生かしたと答えた児童が半数程度で、残りは無回答であった。6年生は他に、「敬語」や「手紙の書き方」、「他の物語を読むとき」などの記述も増え、無回答は2割程度であった。「どのように生かしたか」という点については、4年生は「漢字で書いた」という回答がほとんどであり、読みの方法についての具体的な記述はなかった。6年生では、「登場人物の気持ちの変化に気を付けて読んだ」、「始め・中・終わりを使って作文を書いた」など具体的な回答も見られたが、数は多くなかった。4年生は6年生と比べて、「どのように生かしたら良いかわからない」児童が多く、それが意欲面での差に表れたと考えられる。このような児童の実態から、「国語で学んだことを様々な場面で生かせる」という経験をさせることが大切であると考えた。

以上の(1)、(2)、(3)から、「知識・技能の習得」ではなく、「習得した知識・技能の活用方法の習得」を目指して、本研究主題を設定した。

3 研究仮説

『活用する力を育成する国語科学習指導』という研究主題の実現に向け、以下の2つの仮説を立て、研究を進めた。

仮説1は、国語学習で学んだことを国語学習以外の場面で生かすことにより、活用についての意欲を高めることをねらったものである。

仮説1

実生活・実社会で役に立つ言語活動を取り入れれば、学ぶことの意味が明確になり、活用しようとする意欲が高まるだろう。

[手立て]

- ①付けたい力や学習内容の特性を生かし、「読むこと」と「書くこと」を柔軟に組み合わせた複合単元を計画する。
- ②「学んだことを実際に使い、それが誰かの役に立つ」という経験をさせる。そのために、他教科・領域と連携し、異学年交流も含めた言語活動を設定する。
- ③授業の導入では、「なぜそれを学ぶ必要があるのか」「それを学んだらどうなるのか」「実生活でどのように使えるのか」という学ぶことの必然性を意識させて、言語活動についての見通しを持たせる。

仮説2は、国語学習で学んだことを以降の国語学習で生かすことにより、汎用的な読みの力を高めることをねらったものである。

仮説2

他の場面で生かすことを想定して学習したことをまとめれば、どのような力が必要か明確になり、活用する力が高まるだろう。

[手立て]

- ①教材文を読む学習においては、言語活動のために必要な力を学習問題として提示する。学習後も、教材文の内容ではなく、読解の着眼点や方法について振り返らせる。学習後は、既習の教材文や図書資料を使って、学んだことが生かせることを実感させる。
- ②国語のノートとは別に、活用することを目的としたノートを作成し、「構成のくふう」「使ってみたい表現」など汎用的な知識をまとめ、それを生かして物語や説明文、スピーチ原稿などを書く。
- ③漢字練習や作文などの学習でも、学んだこと相互に関連させて活用させる場を設定する。

4 実践例1

仮説1 一手立て①の実践

○4学年 単元名「キッズニアを10倍楽しむ方法を3年生にしようかしよう。」

[付けたい力]

C(1)イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見の関係を考え、文章を読むこと。

[教材文「便利ということ」の特性]

- ・「話題の提示 → 具体例 → まとめ」という尾括型の構成をとっている。
- ・写真と文章を結び付けて読む力を生かすことができる。
- ・自分の経験と結び付けて文章を読むことができる。
- ・具体例と生活経験を結び付けたり、筆者の考えに対し自分の考えを持ったりすることができる。
- ・具体例が豊富に挿入されているので、生活経験を想起しやすく、主体的に読み進め、それをもとに考えを表出しやすい。

仮説1 一手立て②の実践

[言語活動の設定]

- (1) 総合的な学習の時間でキャリア教育として行った東京キッズニアへの校外学習について、よりよく楽しむ方法を説明文にする。
- (2) 文章はパソコン(word)で作成し、写真と組み合わせてまとめて、来年度キッズニアに行く3年生に読んでもらう。
- (3) 読んだ感想を3年生に書いてもらい、全員で読む。



未来への一歩

子供にとって大人になる前仕事体験できる、というのはとてもうれしい事です。みなさんは「キッズニア」という仕事体験ができる場所があるのを知っていますか？自分でもやりたい仕事ができ、本当にキッズニアだけで使える「お金」がかけられるので、私のおすすめめつらんキッズニアは、3位「ビュティサロン」です。3パターンある中から好きな味をえらべ、さらに「お菓子」を作る所からトッピングまで自分で作ったジュースを食べることが出来ます。2位「新聞記者」です。しるしをいして「A」をえらべ、パソコンで目撃記事が出来ます。A・B・Cがわからなくても紙の色がついているので安心に入社出来ます。

1位「ビューティサロン」です。お客の人になって、ネイルなどお客様にやってあげることが出来ますが、自分がお客さんになってお金をはらい、やってみようことも出来ます。

お金だけでなく、最初からキッズニアに入ります。また、カードを作り銀行にお金をあずけることができます。また、往戻するには、予約の時間が過ぎてしまったら、次の予約の人へ、とほされてしまいます。なので、予約の近くの時刻の時間などよく見ておく必要があります。『ジョブスカジュールカード』という予約の時刻をかく紙があります。その紙をなくしてしまうと、その日は、もう仕事体験ができなくなってしまうので注意してください。

仕事の好きは、男の子、女の子がうらやまします。自分には合わないと思う仕事でも体験した。未来へ一歩踏み出せるかもしれません。みなさんいろんな仕事を体験してください。

〈児童による作品例〉

・総合的な学習の時間（キャリア教育・情報教育）と連携し、パソコンで作成する活動は、総合的な学習の時間に行った。

〈その他の実践〉

社会科の「ごみの処理と利用」の学習と連携し、「ウミガメの命をつなぐ」の教材で学んだことを生かして、社会科見学に行ったクリーンセンターの働きを説明文にまとめた。

実践例2

仮説1—手立て①の実践

○6学年 単元名「自分の委員会を推薦しよう！」

[付けたい力]

- C(1)ウ 推薦文を書くという目的に応じて、文章の内容を的確におさえて要旨を捉え、感心したことや納得したこと、意見などとの関係をおさえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。
- B(1)ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

[教材文「森林のはたらきと健康」の特性]

- ・「話題の提示 → 具体例 → まとめ」という尾括型の構成をとっている。
- ・中心文と理由が明確に区別され、事実と意見の違いをつかみやすい。
- ・明快な役割を持った文末表現が多用され、説明の仕方の参考になる。
- ・冒頭の問いに対する答えの後につなぎの段落があり、新たな問いと答えが示されており、構成についての学習を深めることができる。
- ・読み手にうたえる表現があり、推薦文の良さを知って実生活に生かすことができる。

仮説1—手立て②の実践

[言語活動の設定]

- (1) 構成について学び、わかりやすい推薦文の書き方を身に付ける。
- (2) 来年度委員会に参加する4年生を対象に、自分の所属する委員会を推薦する文章を書く。「森林のはたらきと健康」で学んだことを生かし、つなぎの段落は必ず使う。
- (3) 書いた文章を4年生に読んでもらい、自分が来年入りたい委員会とその理由、推薦文を読んで入ってみたい委員会とその理由、推薦文を読んだ感想をワークシートに書いてもらって、全員で読み、交流する。



委員会の紹介を読んで
感想()

◎この委員会にどの委員会に入りたいか？
(1)どの委員会？
[]

(2) []

◎この委員会の活動に興味を持ってみたいと思った理由は何ですか？
(1)どうしてですか？(理由を記述)
[]

(2) []

◎感想を教えてください。
[]

〈4年生の使用したワークシート〉
・特別活動と連携し、推薦文を書いたり、4年生と交流したりした時間は、委員会活動として行った。

実践例3

○4学年 単元名「本の帯でみ力をつたえよう。」

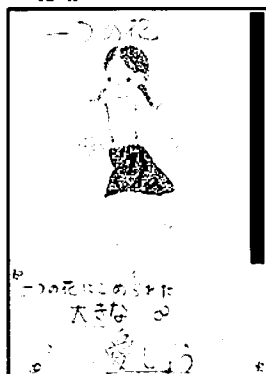
教材名「一つの花」

仮説1 一手立て②の実践

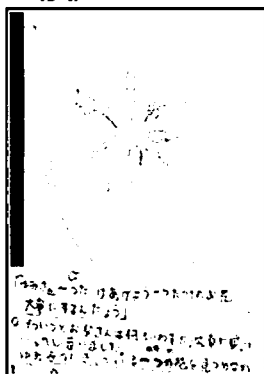
【言語活動の設定】

- (1) 学習前に教師モデルを基に「一つの花」の本の帯を作る。
- (2) 授業で「一つの花」を深く読み、あらためて帯を作る。
- (3) 図書室の本を自分で選んで帯を作り、その本に付けて図書室に展示する。

(表)



(裏)



〈児童による作品例〉

- ・ 題名が表しているもの
- ・ 自分の心を動かしたこと
- ・ 中心人物の変容を表す一文
- ・ 山場の一文
- ・ かんたんであらすじ

などを読みたくなるように直して書くように指導し、それらが書けるように授業計画を立て言語活動を行った。冊子は教科書を「コピーして、表紙の絵は自分で描かせた。

仮説1 一手立て③の実践

【導入での学習の必然性の意識付け】

学習のスタートには、必ず「なぜそれを学ぶ必要があるのか」「それを学んだらどうなるのか」「実生活でどのように使えるのか」について伝え、学習の必然性を意識させてから学習活動を行った。その後のどの学習過程においても、必ず導入では学ぶ必然性を確認した。

〈「一つの花」での学習の必然性の意識付けの例〉

- ・ 「なぜそれを学ぶ必要があるのか」
→本の帯の目的は、読む人にその本の魅力をわかりやすく伝え、読んでもらうことである。そのため、物語を深く読む必要がある。
- ・ 「それを学んだらどうなるのか」
→深く読む方法を身に付ければ、どんな本の帯も作ることができる。帯を作ることで、自分の思いや考えをわかりやすく伝える力が身に付く。
- ・ 「実生活でどのように使えるのか」
→図書室で本を手取る人にわかりやすく魅力を伝えることができる。物事の魅力や自分の思い、考えをわかりやすく伝える力は実社会ではとても大切である。(実際に、実物の本の帯を見せ、実社会と同じことをしているという気持ちを持たせた。)

仮説2-手立て②の実践

○活用を目的とした「創作ノート」の例

設定

① 山田の町
② 山田の町の人々
③ 山田の町の人々

表現

創作

今戸ロコはようとしているまを...
...
山田の町...
...
山田の町...

〈四年生「こんぎつね」学習時の例〉

- ・ 設定（時代・場所・登場人物）
- ・ 中心人物の姿容
- ・ 山場
- ・ 使ってみたい表現
- ・ 自分の創作に生かしてみたいこと

など、活用を目的としてまとめている。

〈自作の物語の例〉
教科書の教材で学んだことを生かして、構成を考えている。

物語の筋
①...
②...
③...
④...
⑤...
⑥...

登場人物
1. 山田ロコ
2. 山田...

わたしの好きな物<スピーチメモ>

題名 「スライム」

始め
課題のようか...

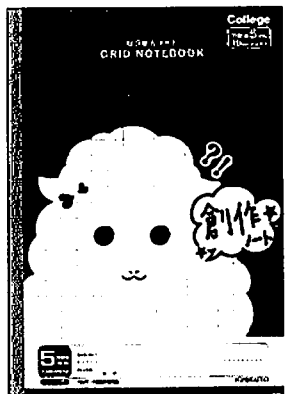
本文
スライムは...
...
...

おしまい
...
...
...

〈スピーチ原稿の例〉

- ・ 始め、中、終わり
- ・ 問いの文、答えの文
- ・ 最後にメッセージ

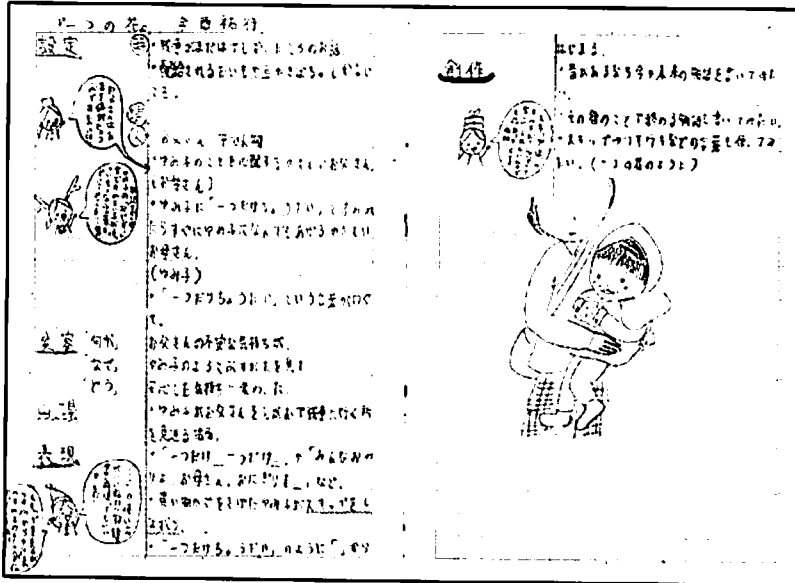
など、学習したことを基に構成を考えている。スピーチは朝の会に行った。



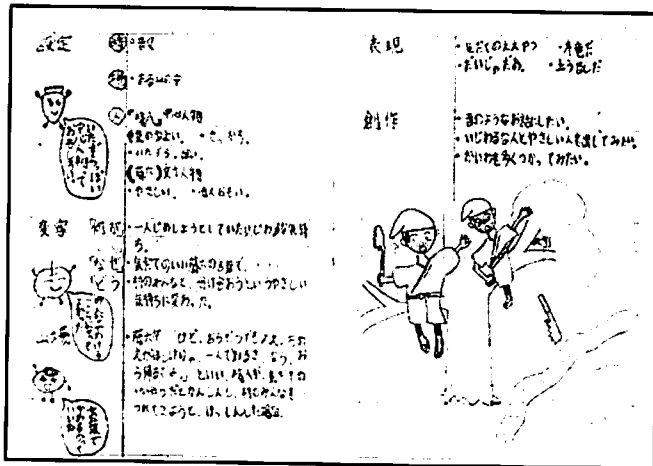
実践例5

仮説2—手立て①の実践

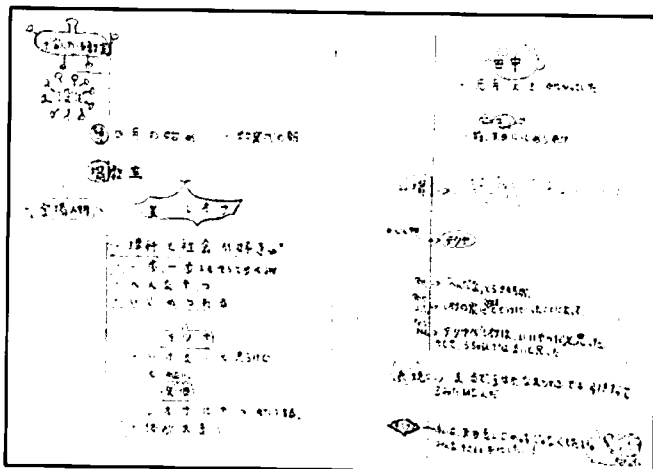
○既習の教材文や図書資料を、「創作ノート」にまとめている例



〈既習の「ひまわり」のまとめ(四年生)〉
 「ひまわり」の学習で学んだ「創作ノート」の書き方を生かして、活用を目的としてまとめている。
 ※国語の時間ではなく、家庭学習として取り組ませた。
 ※左は前ページ「ひまわり」の例と同じ児童。



〈未習の教材に活用した例〉
 まだ学習に入っていない教科書の教材「木竜」を「ひまわり」を自ら読んで、創作ノートにまとめている。
 ※「木竜」は「ひまわり」の言葉(葉・下)(教育出版)に掲載



〈図書資料に活用した例〉
 図書館で借りた本を、自ら進んで家庭学習として創作ノートにまとめている。
 ※書名「宇宙人のいる教室」さとうみさき(善)金の星社

実践例6

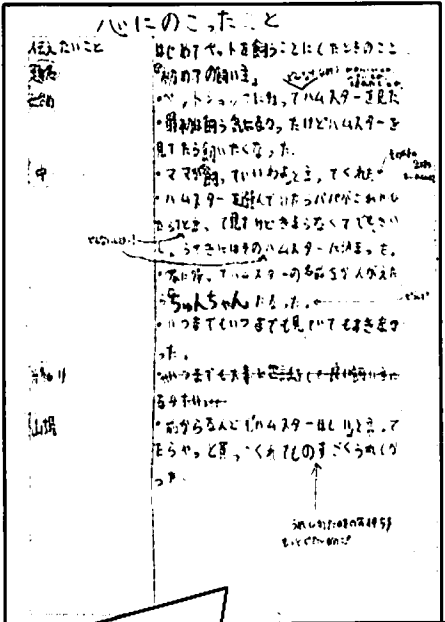
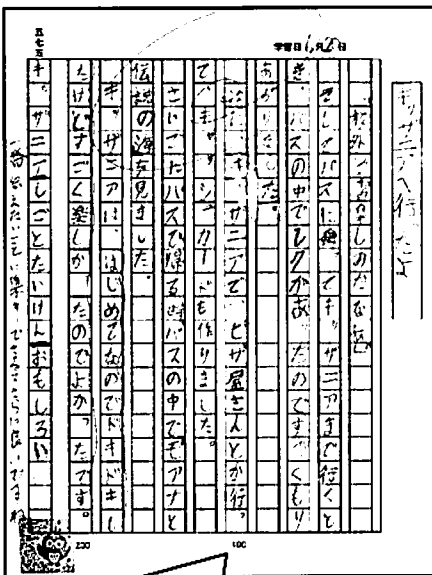
仮説1 一手立て③の実践

○漢字や作文で活用する場を設定した例

業ががんばって寛えようと
 思いました。じゃ業が終わ
 教室にかえるうとしたら、一
 年生の筆箱に付いていたキ
 ホルダーがとれていたので勇
 気を出して、教えてあげまし
 た。何だかうれしかったです。

今日は、社会のじゅ業で
 争について学びました。家
 どが次々に焼かれたとい
 話が特に心に残りました。包
 帯なども配給していったそ
 うです。今日習った、社会のじゅ

〈漢字ノートの例〉
 学年で使用している漢字ドリルから、毎回
 十個の漢字を教師が提示し、そのすべてを使っ
 て作文を書く家庭学習を行った。丸付けは生活
 班が交代で始業前に行い、教師が最終確認をし
 た。文をつなぐために漢字ドリルの文例を意味
 に注目して読むようになった。



〈作文指導の例〉
 「安食台小書きトリー
 ニング」として、週に二回
 二百字以内の作文を書く
 活動を行った。行事や出来
 事だけでなく、国語で学ん
 だ説明文の構成を活用し
 て、自分が詳しく知っている
 ことを書いた。

〈作文指導の例〉
 左の「安食台小書きトリー
 ニング」で書いたことの
 中から、特に心に残った事
 を選び、加筆して文集作り
 を行った。創作ノートに構
 成メモを作り、友達と見せ
 合って助言を受けた点を
 修正している。

I 単元名 物語の良いところを見つけて創作に生かそう 『ごんぎつね』

II 単元について

(1) 付けたい力

本単元を通して付けたい力は、学習指導要領第3学年及び第4学年の以下に該当する。

「C読むこと」(2)内容 ①指導事項

(1)ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

「B書くこと」(1)内容 ①指導事項

(1)イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。

(2) 教材の特性

本単元は「読むこと」と「書くこと」の複合単元として設定する。「読むこと」の過程では『ごんぎつね』を教材として、物語の構成や表現について学ぶ。『ごんぎつね』は、場面の移り変わりに合わせて、ごんと兵十の心情の変化や優れた情景描写が美しい筆致で簡潔に表現されている。そのため、児童は本教材の内容に魅力を感じながら、自己の創作活動に生かしたいという意欲をもって学ぶことができると考える。また、「書くこと」の過程では、『ごんぎつね』を読んで学んだことを生かして、自分で物語を書く活動を行う。

仮説1 一手立て①の実践

(3) 言語活動

学習の最終的なゴールは、「クラスで物語の本を作る」ということに設定した。できた作品は、全員で読んで感想を伝え合ったあと、図書室に置いて誰でも読めるようにする。「学んだことが実際に役に立つ」経験をすることで、「使うために学びたい」という意欲を高めていく。

仮説1 一手立て②の実践

言語活動を進めるために、「場面の移り変わりに注意」したり、「登場人物の性格や気持ちの変化」をまとめたり、「情景」に注目して自分の考えを持ったりする学習を行う。実際に書く活動を意識して読むことで、児童が様々な場面で活用できる「読む力」を付けることができると考えている。

(4) 児童の実態 (男子10名 女子9名 計19名)

<意識調査> (平成29年10月 実施)

☆あなたの気持ちに一番近いところに○をつけてください。				
	とても思う	少し思う	あまり思わない	思わない
1.国語の学習が好き	52.6%	42.1%	0%	5.3%
2.読書が好き	73.7%	21.1%	5.3%	0%
3.物語の学習が好き	68.4%	26.3%	5.3%	0%
4.物語の続きを想像したり、新しい物語を考えたりすることが好き	68.4%	31.6%	0%	0%

意識調査の結果によれば、本学級の児童のうち19名中18名が国語の学習が好きであると回答している。「2.読書」「3.物語」「4.物語の続きを想像したり、新しい物語を考えたりすること」についても意欲が高く、創作的な活動はすべての児童が好きと回答している。総じて学習意欲は高く、積極的に学習活動に取り組むことができる。

<単元で付けたい力に関する調査> (平成29年10月25日 実施)

1. 物語を読むときに大事にしていることを書いてください。(複数回答可) <ul style="list-style-type: none">・中心人物を見つける。(4名)・登場人物の気持ちを考えながら読む。(4名)・場面ごとに分ける。(3名)・物語の世界を想像しながら読む。(3名)・登場人物の気持ちやせりふに注目する。(2名)・疑問に思うことを見つける。(2名)
2. 物語を書くときに大事だと思うことを書いてください。(複数回答可) <ul style="list-style-type: none">・想像をふくらませる。(4名)・丁寧な字で書く。(2名)・漢字を間違えない。(2名)・せりふをたくさん使う。(1名)

学習指導要領の目標にある「場面」、「心情の変化」、「情景」といった言葉は、本学級の児童にあまり定着していないことが分かった。また、読む学習で得た力が、書く活動にほとんど生かされていないことも分かった。

実際の学習では、読む力がとくに不十分ということはなく、教材文の内容を理解することは困難ではない。一つ一つの場面を丁寧に時間をかけて精読していく学習を積み重ねてきた経験はあるが、他の場面で生かすことを意識した学習は、まだ十分ではないと考えられる。

(5) 指導観

本単元は「読むこと」と「書くこと」の複合単元であり、全体を三つの過程に分けて計画した。それぞれの指導過程においては、以下の点に留意して指導していく。

〈一次〉

- ①学習のスタートにクラスで作った物語の本を図書室に置くというゴールを伝え、『物語の良いところを見つけて創作に生かそう』というめあてを持たせる。 仮説1 一手立て②の実践
- ②単元終了後の自己の変容を実感させるため、初発の感想を書く。感想を書く時には、特にわからないことや疑問に思った事を重視させる。物語を「深く読む」ためには、全ての疑問に根拠に基づいて答えられるようになることが必要であり、「深く読む力」が実生活・実社会の様々な面で大切な力であることを伝える。 仮説1 一手立て③の実践
- ③児童の疑問と教師がおさえさせたい教材のポイントをもとに作成したテストを実施する。教材についての児童の実態、誤読やつまずきやすい部分を教師が把握する ⇒ 資料① 17P

〈二次〉

- ①各授業の導入では、めあてと言語活動を確認し、「今学んでいることを後で実際使うんだ」という意識を持たせるようにしていく。 仮説1 一手立て③の実践
- ②学習問題と振り返りは、「物語を構造的に理解するために必要な項目」を、付けたい力と系統性、児童の実態に合わせて提示し、考えさせる。 仮説2 一手立て①の実践
- ③各授業の展開は、原則として「自分ひとりで考える個の時間」→「友達と話し合う交流の時間」→「全体で意見を出し合う共有の時間」→「共有したことを基に自分なりの考えをまとめる個の時間」という流れで進める。
- ④教材の全文を印刷した全文シートを使用して、全体の構成を意識させる。
- ⑤本単元で児童に付けたい力の一つ目は、「場面の移り変わりに注意して、登場人物の心の動きを考えながら読む力」である。そのためには、すべての登場人物ではなく、「中心人物の変容」に注目させる。その際、「なぜ変わったか」「何が変わったか」「どう変わったか」の3つに注目することで、心の動きを構造的にとらえさせる。また、優れた情景描写についても、「自分が書くときに役に立つ」という視点で注目させる。学んだことは、国語のノートとは別の「創作ノート」にまとめることで、活用するという意識を強く持たせていく。 仮説2 一手立て②の実践

〈三次〉

- ①二次で学んだことを確認し定着させるための自己評価を行う。 ⇒ 資料② 18P
- ②「創作ノート」には、授業で取り上げた「物語を構造的に理解するために必要な項目」から、書くために必要な項目を抽出してまとめさせる。これらの活動を通して、汎用性の高い読む力、つまり「活用する力」を高めていく。 仮説2 一手立て②の実践
- ③付けたい力の二つ目は、「文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成する力」である。そのために、「創作ノート」にまとめたことを基に物語を書かせて、学んだ知識を活用する体験をさせる。自らがまとめた読む方法が他の場面で使えるという経験をさせることで、新たな読む学習や日常の読書活動へとつながるように指導していく。 ⇒ 資料③ 18P 仮説2 一手立て②の実践

Ⅲ 単元の目標

○物語を読み、進んで自分の感想を話したり友達の感想を聞こうとしたりしている。

(国語への関心・意欲・態度)

○場面の移り変わりに注意して、登場人物の心の動きを考えながら読むことができる。(読む能力)

○文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成することができる。(書く能力)

○表現したり理解したりするために必要な語句を増やし、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

Ⅳ 指導計画(12時間扱い)

指導過程	時配	学習内容・学習活動・学習問題	評価規準(評価の観点・評価方法)
一次	1	<ul style="list-style-type: none"> 『物語の良いところを見つけて創作に生かそう』という学習のめあてをつかむ。 全文を通読し、新出漢字の練習と語句の意味調べを行う。 	関 ・ゴールまでの見通しを持ち、意欲的に読もうとしている。 (発言・観察) 伝 ・理解するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けている。(ノート・観察)
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">物語を深く読むために大切な疑問は何だろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 初発の感想を書き、交流する。 	関 ・あらすじをつかみ、心に残ったことや疑問に思ったことを中心に感想を書いている。 (ノート・発言)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 初発の感想をもとに作成した事前テストをする。 	関 ・作品の疑問について、自分なりの考えを持とうとしている。 (テスト)
二次	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">登場人物の人物像はどこからみつければよいだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の人物像を叙述を根拠に考える。 自分の考えを基に友達と意見を交流する。 	読 ・叙述を根拠にして、ごんと兵十の人物像を読み取っている。 (ノート・発言) 関 ・進んで考えを伝え合っている。 (行動観察)
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">中心人物はどのようにみつければよいだろうか。</div>	読 ・心の動きを根拠にして、中心人物がごんであることを読み取っている。 (ノート・発言)

二次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・中心人物が誰かを叙述を根拠に考える。 ・自分の考えを基に友達と意見を交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">物語の山場はどのようにみつけばよいだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の山場を叙述を根拠に考える。 ・自分の考えを基に友達と意見を交流する。 	<p>関 ・進んで考えを伝え合っている。 (行動観察)</p> <p>読 ・場面の役割を理解し、ごんの心情が大きく変化した場面を読み取っている。(ノート・発言)</p> <p>関 ・進んで考えを伝え合っている。 (行動観察)</p>
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">中心人物の変容はどのようにみつけばよいだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんの気持ちが「なぜ」「何によって」「どう」変わったか考える。 ・自分の考えを基に友達と意見を交流する。 	<p>読 ・ごんの変容とその原因となった出来事を読み取り、因果関係を理解している。(ノート・発言)</p> <p>関 ・進んで考えを伝え合っている。 (行動観察)</p>
	1 本時 (9/12)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">情景を書くときどのようなこがあるのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを基に友達と意見を交流する。 ・情景描写の効果について考える。 	<p>読 ・優れた情景描写に注目し、登場人物の心情を表していることに気づく。(ノート・発言)</p> <p>関 ・進んで考えを伝え合っている。 (行動観察)</p>
三次	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">物語の構成を創作ノートにまとめよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・二次で学んだことを自己評価する。 ・二次で学んだことを創作ノートにまとめる。 	<p>関 ・進んで自己評価を行おうとしている。(自己評価シート)</p> <p>書 ・「ごんぎつね」の構成を作品作りに生かす目的を持って創作ノートにまとめる。(創作ノート)</p>
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">学んだことを生かして物語を書こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをもとに、自分で考えた物語の構成を書く。 	<p>書 ・学習したことを活用して作品作りに取り組んでいる。 (創作ノート)</p>
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">物語の構成を創作ノートにまとめよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した物語をもとに、友達と交流して、感想を述べ合う。 ・友達の作品の良いところを見つけ、自分の作品を振り返り、改善すべき点を考える。 	<p>関 ・友達の良いところを自分で自己の活動に生かそうとしている。 (行動観察)</p>

V 本時の指導 (9/12)

(1) 目標

○進んで考えを伝え合い、自分の考えに生かそうとすることができる。 (関心・意欲・態度)

○心に残った情景描写について、その効果を考えることができる。 (読む能力)

(2) 展開

学習プロセス ・時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
①問題把握 5	1 情景描写の例を挙げ、「情景」という言葉について確認する。 ・空はからっと晴れていて、もずの音がきんきんひびいていました。	・臨場感を持たせるために、表現から感じることを想像させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 情景を書くときどのようなことがあるのだろうか。 </div>			
②問題の自力 解決 20	2 情景描写に線を引き、どのような効果があるか考える。 ①全文シートの情景描写に線を引く。 ②発表して全体で共有する。 ③好きな情景描写を選んで、どのような効果があるか考え、ノートに書く。	・支援が必要な児童の様子を確認し、何も書けていなければ助言する。 ・誤読している児童をチェックしておき、交流活動の場面で、修正できるかどうか確認する。	
③問題の全体 検討 15	3 情景描写の効果について書いた自分の考えをもとに交流する。 ①グループで考えを話し合う。 ②ホワイトボードにまとめ、発表して共有する。	・「どうしてそう思ったか」という疑問を大切に、自分なりの根拠を持って説明できることが重要であることを知らせる。 ・話し合いが活発に行われるように、グループの成員を工夫しておく。	ホワイトボード
④問題のまとめ 5	4 情景描写の効果についてまとめ、本時の振り返りとする。 ・班の発表を参考に、自分でノートにまとめる。 5 『創作ノート』に使ってみたい情景描写を記入する。 ・「表現」の項目に、使ってみたい表現、心に残った表現として書く。	○進んで考えを伝え合い、自分の考えに生かそうとすることができたか。 (関・意・態/行動観察) ○心に残った情景描写について、その効果を考えることができたか。 (読/ノート)	

VI 板書計画

「**ふりかえり**」
情景びょうしゅには、登場人物の気持ちを表すことが
がある。

ホワイト
ボード

④ 情景びょうしゅのふりかえりには、登場人物の気持ちを表すことが
ある。

物語のあらうじを見つけて創作に生かそう
情景びょうしゅ＝景色や場面の様子がえがかれている
うじ
新美南吉
空はからっと晴れていて、もずの音がきんきんひび
いていました。↓晴れ晴れとした気持ち
「情景びょうしゅ」の情景びょうしゅをみつけてみよう

VII 単元学習終了後の児童の変容

<意識調査> (学習後調査は平成 29 年 11 月 実施)

☆あなたの気持ちに一番近いところに○をつけてください。

	とても思う		少し思う		あまり思わない		思わない	
	学習前	学習後	学習前	学習後	学習前	学習後	学習前	学習後
1.国語の学習が好き	52.6%	63.2%	42.1%	31.6%	0%	5.3%	5.3%	0%
2.読書が好き	73.7%	63.2%	21.1%	36.8%	5.3%	0%	0%	0%
3.物語の学習が好き	68.4%	89.5%	26.3%	10.5%	5.3%	0%	0%	0%
4.物語の続きを想像したり、新しい物語を考えたりすることが好き	68.4%	84.8%	31.6%	15.2%	0%	0%	0%	0%

「1.国語の学習が好き」に対しては、「とても思う」と回答した児童が増え、「思わない」と回答した児童が減った。しかし、「少し思う」「あまり思わない」と回答した7名の児童は、国語の学習に自信のない児童が多く、「わかった」という実感を体験させる指導が必要と考えられる。「3.物語の学習が好き」「4.物語の続きを想像したり、新しい物語を考えたりすることが好き」については、「とても思う」と答えた児童が大きく増えた。力が付き、楽しいと感じられる言語活動をさらに充実させていきたい。「2.読書が好き」に対しては、「とても思う」と回答した児童が2名減った。本単元でも新美南吉の本を平行読書させていたが、言語活動と結び付けなかったため、意欲を高める

ことにつながらなかったと考えられる。本を読み味わって感想を伝え合ったり、紹介したりする活動も実社会・実生活に生かせる重要な言語活動であり、年間計画の中でバランスよく実施していくことが課題である。

〈単元で付けたい力に関する調査〉 (平成29年11月 実施)

1. 物語を読むときに大事にしていることを書いてください。(複数回答可)
 - ・ 中心人物の変容を考える。(9名)
 - ・ 構成を考えて読む。(8名)
 - ・ 中心人物を見つける。(7名)
 - ・ 山場を見つける。(3名)
 - ・ 物語の世界を想像しながら読む。(3名)
 - ・ 登場人物の気持ちを考えながら読む。(2名)
 - ・ 根拠を見つけて読む。(1名)
2. 物語を書くときに大事だと思うことを書いてください。(複数回答可)
 - ・ 構成を考えて書く。(8名)
 - ・ 中心人物の変容を考えて書く。(7名)
 - ・ 人物像を考えて書く。(4名)
 - ・ 情景を書く。(4名)
 - ・ 漢字を間違えない。(3名)

単元終了後の記述式調査では、学習前と比べて、具体的な読み書きの方法を回答した児童が大幅に増えた。実際の学習の場面でも、3か月後に行った物語文「木電うるし」において、上記の読みの方を生かしている児童が多く見られた。しかし、記述式調に回答できず、実際の学習では定着していない児童も数名おり、個に応じた指導が十分ではなかった。

Ⅷ 本単元の学習に関する資料

①児童の疑問と教師がおさえさせたい教材のポイントをもとに作成した事前テスト(第3時に実施)

①この物語の山場はどこですか？	②この物語の中心人物は誰ですか？
③この物語の構成はどのような順番ですか？	④この物語の情景はどのような感じですか？
⑤この物語の登場人物の気持ちを教えてください。	⑥この物語の漢字を間違えないように書いてください。
⑦この物語の山場はどのような場面ですか？	⑧この物語の中心人物は誰ですか？
⑨この物語の構成はどのような順番ですか？	⑩この物語の情景はどのような感じですか？
⑪この物語の登場人物の気持ちを教えてください。	⑫この物語の漢字を間違えないように書いてください。
⑬この物語の山場はどのような場面ですか？	⑭この物語の中心人物は誰ですか？
⑮この物語の構成はどのような順番ですか？	⑯この物語の情景はどのような感じですか？
⑰この物語の登場人物の気持ちを教えてください。	⑱この物語の漢字を間違えないように書いてください。
⑲この物語の山場はどのような場面ですか？	⑳この物語の中心人物は誰ですか？
㉑この物語の構成はどのような順番ですか？	㉒この物語の情景はどのような感じですか？
㉓この物語の登場人物の気持ちを教えてください。	㉔この物語の漢字を間違えないように書いてください。

〈児童の解答例〉
 1. 山のさびしさに注目して読んでいないので、最終場面での心情の変化に気付いていない。(気づいていた児童は一人もいなかった。)

② 自己評価シート

〈 『ごんぎつね』 自己ひょうかシート 〉

	名前			
	構成を読む力	心情の変化を読む力	深く読む力	活用する力
レベル3	『ごんぎつね』の山場がわかる。	『ごんぎつね』の中心人物の、何が、何によって、どう変わったかがわかる。	『ごんぎつね』の中心人物の変容から、大事なことは何かを考え、それに対する自分の考えを書くことができる。	物語を深く読んで受け取ったことや、構成について学んだことを生かして、物語を書くことができる。
レベル2	設定・展開・山場・結末の分け方がわかる。	中心人物がどう変わったかわかる。	作品を読んで、大事なことは何かを考え、それに対する自分の考えを書くことができる。	中心人物の変容について学んだことを生かして、物語を書くことができる。
レベル1	物語が設定・展開・山場・結末に分けられることを知っている。	中心人物がだれかわかる。	作品を読んで、大事なことは何か考えることができる。	学んだことを生かして、物語を書くことができる。

本単元を通して付けたい力を、児童にわかるように四つに分けて評価規準とした。上段ほど難易度が高い評価になる。児童は自分ができると思ったりところに丸を付けて自己評価する。

	構成を読む力	心情の変化を読む力	深く読む力	活用する力
レベル3	47.4%	10.5%	26.3%	31.6%
レベル2	52.6%	63.2%	52.6%	52.6%
レベル1	0%	26.3%	21.1%	15.8%

〈自己評価シートの集計結果〉
十九名を対象に行った自己評価の結果、「心情の変化を読む力」に児童が自信を持っていないことがわかった。事前テスト時に、ごんの心情がつかめなかったことが影響していると考えられる。

③ 自作の物語における情景描写の活用

北の山の中、いよいよ冬が来た。雪が降り、木々が白く染まっていた。田舎の静けさを感じ、心は安んじていた。お母さんが、お茶を淹れてくれた。暖かいお茶を飲み、心はほっとした。外の空気が冷たい。早く帰りたい。お母さん、早く帰ってね。お母さんが、お茶を淹れてくれた。暖かいお茶を飲み、心はほっとした。外の空気が冷たい。早く帰りたい。お母さん、早く帰ってね。

北の山の中、いよいよ冬が来た。雪が降り、木々が白く染まっていた。田舎の静けさを感じ、心は安んじていた。お母さんが、お茶を淹れてくれた。暖かいお茶を飲み、心はほっとした。外の空気が冷たい。早く帰りたい。お母さん、早く帰ってね。お母さんが、お茶を淹れてくれた。暖かいお茶を飲み、心はほっとした。外の空気が冷たい。早く帰りたい。お母さん、早く帰ってね。

北の山の中、いよいよ冬が来た。雪が降り、木々が白く染まっていた。田舎の静けさを感じ、心は安んじていた。お母さんが、お茶を淹れてくれた。暖かいお茶を飲み、心はほっとした。外の空気が冷たい。早く帰りたい。お母さん、早く帰ってね。お母さんが、お茶を淹れてくれた。暖かいお茶を飲み、心はほっとした。外の空気が冷たい。早く帰りたい。お母さん、早く帰ってね。

自作の物語を創作ノートに下書きしている。その中で登場人物の心情を表すのに情景描写を活用している。

5 成果と課題

(1) 児童の変容

〈意識調査〉（「4月」は平成29年4月、「3月」は平成30年3月に実施）

「国語で学んだことを他の場面で生かしてみたいと思いますか。」

	とても思う		少し思う		あまり思わない		思わない	
	3月	4月	3月	4月	3月	4月	3月	4月
4年生	36.8%	63.2%	21.1%	36.8%	26.3%	0%	15.8%	0%
6年生	50%	70%	45%	25%	5%	5%	0%	0%

活用についての意識調査では、4年生、6年生ともに、肯定的な回答が大きく向上した。特に、4年生では、「あまり思わない」「思わない」と回答していた8名が、全員肯定的な回答をしたことが、大きな変容と言える。

・千葉県標準学力検査における「読む能力」正答率

	千葉県標準学力検査 (28年度)	千葉県標準学力検査 (29年度)
4年生	62.1%	77.2%
6年生	57.8%	65.5%

千葉県標準学力検査の読む力の正答率は、4年生、6年生ともに、大きく向上した。県標準学力検査で示された読む力の向上が、そのまま活用する力の向上を示すものではない。また、研究主題に直接かわらない取り組みが読む力を伸ばした場合もある。しかし、活用する力の育成を目指した様々な活動が、確かな学力の定着に良い影響を与えたということは考えられる。

(2) 研究仮説についての成果と課題

仮説1

実生活・実社会で役に立つ言語活動を取り入れれば、学ぶことの意味が明確になり、活用しようとする意欲が高まるだろう。

〈成果〉

- ・読むことと書くことの複合単元は、児童にとっての読む必然性が明らかになり、読む活動の意欲が高まった。
- ・社会科や総合的な学習の時間などでも、国語で学んだことが生かせることを経験し、国語学習全般への意欲が高まった。

- ・学んだことが他教科、領域でも生かせることや、実際に役に立つことを経験したことで、新たな物を創造しようという意欲が高まった。

〈課題〉

- ・他教科、領域との連携は、特定の学年の特定の単元においてしか実践できなかった。系統的な指導にするためには、指導者のくふうが必要である。
- ・多様な学習活動を連携させて活用していくことにこだわると、取り組みが中途半端になる活動があった。教育課程全体や系統的な指導のバランスに注意して計画する必要がある。

仮説2

他の場面で生かすことを想定して学習したことをまとめれば、どのような力が必要か明確になり、活用する力が高まるだろう。

〈成果〉

- ・言語活動を達成するために教材を深く読むという態度を徹底したため、教材文の内容理解にとどまらず、未習の教材や図書資料でも既習事項を使って読もうとする姿が見られた。
- ・学習したことを生かす活動までをセットで経験させたことで、授業以外で読んだ本も「創作ノート」にまとめるなど、活用しようという意欲が高まった。
- ・国語のノートとは別に一冊のノートにまとめることで、活用を意識した学習を行うことができた。

〈課題〉

- ・授業以外で取り上げた本については、実態に合わないものも多く、うまく活用できないことがあった。汎用的な力として児童の身に付くには、多くの経験が必要である。
- ・児童の自主的な取り組みにまかせると、何もしない児童も多かった。児童により有用性を実感させつつ、簡単に組み立てるような環境を整えることが必要である。

〈28年度に4年生と6年生が制作し、図書室に展示した作品〉

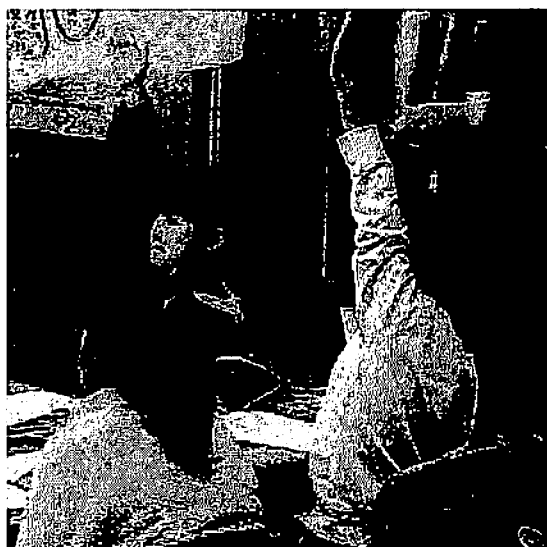


平成30年度 印旛地区教育研究集会

国語科「読むこと」分散会 提案資料

研究主題

「主体的に読む力を育てる国語科教育
～言語活動の充実を通して～」



佐倉市立志津小学校 国語研究部

1 研究主題

「主体的に読む力を育てる国語科教育～言語活動の充実を通して～」

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は、「自ら学び 豊かに関わり合い たくましく生きる児童の育成」である。

「豊かに関わり合い」とは、周りの人とより良い関係を築いていくことである。相手を思いやって、協力することや相手の考えを聞き、話し合い、自分の考えをもつこと、そして、それを発信することでさらに自己が磨かれていくものとする。また、学習や読書活動のなかで、自分の感情を言語化していくことで、心はいっそう豊かになっていくだろう。

「たくましく生きる」には、主体的に考え、行動する力が必要である。『日ごろの学習に課題意識をもつ』こと、『自己を表現する言語力を付け、相手のことを理解したり、自分の考えを伝えたりすることにより、よりよい関係を築いていく』ことにより、その力を付けることができるだろう。

(2) 学習指導要領から

小学校学習指導要領では、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」という目標が掲げられている。また、『小学校学習指導要領解説 国語編』には、「前段では、国語の能力の根幹となる、国語による表現力と理解力とを育成することが、国語科の最も基本的な目標であることを述べている。」とある。この能力は、学習活動全般の礎となる力である。この力が生きて働くことで、学習活動が充実し、それに伴い、児童相互のコミュニケーション能力の向上につながっていくと考える。学校生活において、必要不可欠な能力である。

また、新学習指導要領の「国語科」の改訂のポイントでは、言語力育成の中核を担う教科として、生活や学習に必要な能力を身に付けるため、言語活動を「内容の取扱い」から「内容」に格上げし、充実を図っている。ますます、国語科が重要視されていると考える。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、明るく活動的で、新しいことに興味をもち、何事にも楽しんで取り組むことができる。しかし、自分の考えをもって、判断・行動することが苦手な傾向にある。また、自分の気持ちや考えを相手に分かるように伝える力が十分ではない。

研究を始めた前年度（H26年度）の県標準学力検査の結果を見ると、「話す・聞く」「書く」「読む」「言語」の項目のうち、「読む」以外の3項目は県平均を数点だが越えている。しかし、「読む」に関しては、6学年中4学年が県平均を0.3～1.1点下回っていた。この結果から本校の児童には、文章を読む力が必要であると考え、読む力に関する研究を始めることになった。本提案の実践の行われたH29年度の前年度（H28年度）では、「読む」の項目で全学年0.1～5.7点越えている。更なる読む力の定着のために研究を進めた。

国語科アンケートの結果からは、「国語の学習が好き」「どちらかと言えば好き」と答えた児童が8割

程度で、国語の学習に楽しく取り組むことができる児童が多いことが分かる。また、「物語」と「説明文」に関する質問では、7割以上の児童が「読みたいと思う・どちらかと言うと読みたい」と答えている。その理由として、物語に関しては「いろいろな展開がある」「イメージしながら読める」「主人公の気持ちを考えるのが楽しい」、説明文に関しては、「新しいことを知ることができる」「まとめる力がつく」などが挙げられた。逆に、「読みたいと思わない・どちらかというと思わない」と回答した理由としては、「文章が長い」「気持ちを考えるのが苦手」「細かいところを読み取るのが大変」などが挙げられた。長い文章を読む基礎的な力やいろいろな読みの技法を身に付ける必要がある。

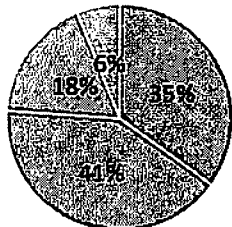
また、『感想を書くこと』や『成果物の紹介』に関する質問では、「自分の意見を聞いてほしい」「友達の感想を聞きたい」「褒めてもらおううれしい」など前向きな回答が挙げられた。しかし、「相手に上手に伝わらない」「間違えたり反対されたりするのが嫌だ」「自信がない」「恥ずかしい」「伝え方が分からない」などの回答も見られた。進んで友達との交流をし、その良さを生かし、国語の学習に意欲的に取り組む子どもたちになってほしいと考える。

毎日行っている朝読書（10分間）やドリルタイムの学習・音読（15分間、最初の2分が全校音読）に関しては、意欲的に取り組んでいる児童が多い。読書に関しては、個人差があるが、全校で読書の推進に取り組んでいる。たくさんの本を読むことが「読む」の力を付けていくと考える。自ら本に手を伸ばす子どもたちになってほしい。

これらの調査、実態から、「主体的に読む力」を身に付けさせたいと考え、本主題で取り組んでいくことにした。

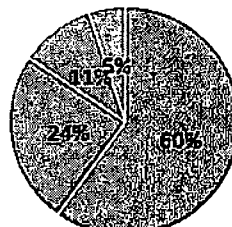
<平成29年度 4月アンケート結果>

1. 国語は好きですか？



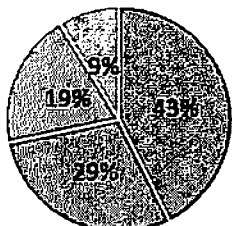
・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない

2. 物語文を読みたいと思いますか？



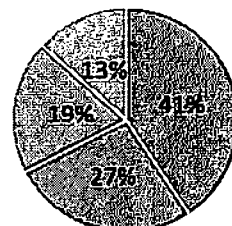
・思いません ・どちらかといえば思いません ・どちらかといえば思いますが ・思いますが

3. 説明文を読みたいと思いますか？



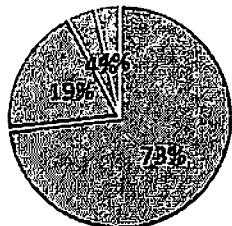
・思いません ・どちらかといえば思いません ・どちらかといえば思いますが ・思いますが

4. 音読をすることは好きですか？



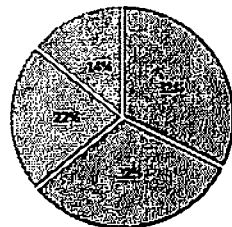
・好きです ・どちらかといえば好きです ・どちらかといえば好きではない ・好きではない

5. 読書をすることは好きですか？



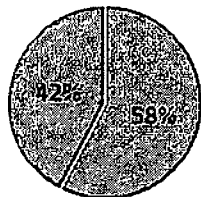
・好きです ・どちらかといえば好きです ・どちらかといえば好きではない ・好きではない

6. 感想を書くことは好きですか？



・好きです ・どちらかといえば好きです ・どちらかといえば好きではない ・好きではない

7. 国語の授業で自分の書いたもの、作ったものを紹介したいですか？



・はい ・いいえ

3 研究主題について

「主体的に読む力」とは、課題意識をもって読むことにより付いていくと考える。教材文を読む際には、①どのような視点で読んでいくのか ②見通しをもち、どのように学習がつながっているのか ③ゴールをはっきりとイメージし、何のために読んでいくのかを意識できるようにさせたい。そのためには、(1)教材文の特性を生かした言語活動を選ぶ (2)「つけたい力」を効果的に付けるための単元計画を工夫する (3)学校図書館司書の協力を得て、並行読書で「必要な本」を選定し、児童が自ら本を手に取り、進んで読むことができる環境を整える、の3点が必要と考える。

「児童の読む姿」

低学年	<p>事柄の順序や場面の様子に気付いたり、想像を広げたりしながら読むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むことができる。 ・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。 ・文章の中の大事な言葉や文を書き抜くことができる。 ・楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むことができる。
中学年	<p>目的に応じ、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むことができる。 ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。 ・目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすることができる。 ・目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むことができる。
高学年	<p>目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫することができる。 ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすることができる。 ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。 ・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むことができる。

4 研究仮説について

仮説 1

適切な言語活動を設定し、単元計画を工夫すれば、「つきたい力」を身に付けさせることができるだろう。

<手立て>

授業での取り組み

① 適切な言語活動の精選

- ・手紙・詩・物語・作文・続き話・短歌・俳句・川柳・標語・かるた・紙芝居・新聞・巻物・劇・ペーパーサート・立体パンフレット・小冊子パンフレット・リーフレット・ポップ・座談会・依頼状・案内状・礼状・ポスター・報告文・パネルディスカッション、などから設定する。

② 単元計画の工夫

- ・「入れ子式」「ABワンセット方式」などを取り入れ、単元構成をする。
 - 入れ子式・・・・・・・・前半30分程度は、教科書教材を読み、残りの15分程度は自分で選んだ本を読む学習を取り入れる。
 - ABワンセット方式・・・教科書教材→自分の選んだ本→教科書教材→自分の選んだ本…
というように、1単位時間ごとに交互に読み進める。
- ・並行読書を取り入れるタイミングを考える。
- ・交流活動（ペアで・グループで・学級全体で・他学年に・保護者に）を取り入れる。
- ・単元のゴールをはっきりとイメージできるようにさせてから学習に入る。場合によっては、モデルを提示する。
- ・音読の仕方の工夫

学校全体での取り組み

① 読解力の基礎作り

- ・基礎となる「読む力」を習得させるため、読解プリントを使い、短い文章から読み慣れていくようにさせる。
- ・ドリルタイムの始めに全校で音読を実施することにより、学習にめりはりを付け、声をよく出せるようにさせる。また、文学作品の表現の良さにも気付かせる。
(「吾輩は猫である」・「平家物語」・「竹取物語」・「徒然草」・「寿限無」・季節の百人一首など)

仮説 2

読みの視点を明確にすることで、児童が内容や要旨にせまりやすくなり、読みの広がりや深まりが期待できるだろう。

<手立て>

授業での取り組み

① 「読みの視点」の明確化

- ・教材文の学習の際に「読みの視点」を明示する。
 - 登場人物のしたことを追う（1年）
 - 人柄が分かる表現を見つける（2年）
 - 「人物関係図」「美しい一文」「クライマックス」などについて読む（5年）
 - 行動と人物像から生き方を読みとる（6年）など

② 並行読書

- ・「読みの視点」を生かせるような本の選定をする。
- ・単元に関連した本を集め、児童が手に取りやすい場所（教室や学年廊下）へ資料を置く。
- ・学校図書館での授業の推進や学校図書館の本を活用した授業を行うようにする。
- ・毎月の学校図書館活用の提案を参考にし、本の選定をする。

学校全体での取り組み

① 朝読書の充実

- ・図書室などで読む本を選び借りる。
- ・テーマを決めて読み、いろいろなジャンルの本にふれるようにする。
- ・学習に関連する本を読む。

② 読書記録を付けて、足跡を残す

- ・「読書マラソン」として、読書記録を残す。その記録から、多読児童を「しづっこ読書認定」で表彰する。また、「おすすめの本」を紹介する「本のプレゼント」に取り組み、読書の深まりや広がりをもたらすようにする。

③ 学校図書館司書の活用

- ・単元に関連する資料や学校図書館活用に関する助言を得る。
(図書オリエンテーション 各学級年2回)
- ・児童の実態に即した本の購入をしてもらう。

④ 図書ボランティアや地域のお話会との連携

- ・図書ボランティアによる朝の読み聞かせで、児童の本への興味を広げる。
- ・地域のお話会による語りで、児童が昔話に親しむ機会を設ける。

⑤ 市や地域の図書館の活用

- ・学習の内容や児童のニーズに応じた文献や資料を集める。

学習の実際 < 1年生 >

単元名	おはなしどうぶつえん
つきたい力	登場人物の行動を手掛かりに、物語を楽しく進んで読み、作品の紹介をする力
言語活動	どうぶつおうけっていせん！
読みの視点	登場人物のしたことを追う

ゴールをはっきりさせる 仮説1

言語活動：「どうぶつおうけっていせん！」

「どうぶつおうけっていせん！」の仕方

- ① 班ごとに自分の担当の動物が出てくる本を探して読む。
- ② 選んだ本を紹介する文を書く。(主人公は誰か、どんなことをしたのかを中心に)
- ③ 班の中でお互いに紹介し合い、「班のチャンピオンの本」を決める。
- ④ それぞれの「班のチャンピオンの本」に選ばれた本をクラス全体の前で紹介する。
- ⑤ クラス全員の投票により、「クラスのチャンピオンの本」を決める。
- ⑥ どうしてその本を選んだか、発表する。

○「読書マラソン」「どうぶつたんでいてちょう」を手掛かりに、図書室で担当の動物の本を探し、紹介する文を書く

「読みの視点」登場人物のしたこと、について読んでいく。

→ 選ばれたいと思うことにより、よりよく読もうとしたり、わかりやすく書こうとしたりすることができる。

○「班のチャンピオンの本」を選ぶ

「クラスのチャンピオンの本」を選ぶ

→誰が紹介したかではなく、紹介の内容をよく聞き、読みたくなったかどうかで、本を選ぶようにする。

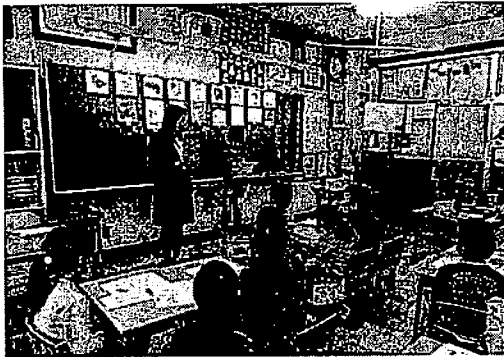
9つの班(班は、3人か4人)で担当した動物





《班で選んでいる様子 とりチーム》

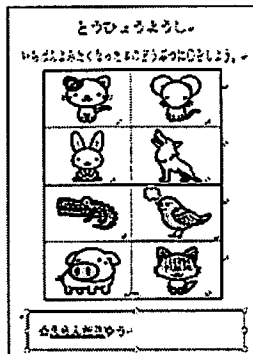
- ・本の紹介をそれぞれする。
- ・「せーのっ。」と指差して「班のチャンピオンの本」を決める。



《クラス全体で紹介している様子》

- ・「班のチャンピオンの本」の紹介をクラス全体の前でする。(9冊の本)
- ・投票により、「クラスのチャンピオンの本」を選ぶ。選んだ理由も書く。

○投票結果の発表，本を選んだ理由を発表



- ・自分の班の動物を除いた投票用紙を用意。
- ・本を選んだ理由を書くようにした。

→本を選んだ理由を発表することにより、いろいろな視点を知ることができる。

- ・そのあとどうなるか、読みたくなった。
- ・登場人物が面白そうだった。
- ・そのシリーズを読んだことがあって、面白かったから。など

○紹介した本をすぐに手が届く教室に置き，お互いに読み合う

【年間通して取り組んだ活動】

①全校で取り組んでいる「読書マラソン」の活用

- ・1枚に10冊の本の題名を書く。
- ・1枚終わるごとに、新しいシートをもらいに来る。
- ・その際に10冊のうちの1冊について、「どんなお話だったか」「おもしろいところはどこか」と聞いた。教師に説明することで、「インプットしたことをアウトプットすること」を年間を通じて行った。
- ・教師に話すことが目的の一つとなり、物語をしっかりと読むこととなった。

②毎朝の読み聞かせの活用

- ・朝読書の時間を、年間を通して読み聞かせの時間とした。読み聞かせの後、「主な登場人物はだれでしょう」と尋ねた。また、いろいろなジャンルの話を読み、紹介した。

おすすめの本をしょうかいしよう
 ~どうぶつおう けっていせん!~ (ウサギ) チーム

ずいせんしゃ

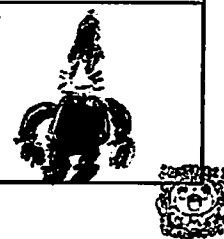
本のだいいい **やうびん だぎとし びん さん**

本をかいた人 **こく れま さん**

おもな どうじょうじんぶつ
 ウサギ
 しろうま

おはなしのしょうかい

ちんかくやまとまんまるやまの
 まんなかにやうびんきく
 があってそこではたらいてるのは
 うさぎです。うさぎのあ
 せにこなやきが
 てきてあげて
 がはさまがけり
 ないのです。



おすすめの本をしょうかいしよう
 ~どうぶつおう けっていせん!~ (ねこ) チーム

ずいせんしゃ

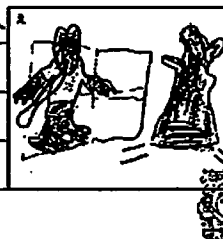
本のだいいい **ワニくんとかわいい 木**

本をかいた人 **みやぎ きりかず**

おもな どうじょうじんぶつ
 ワニく
 かわいいき

おはなしのしょうかい

ワニくんがかえってきたら木のめが
 てはね。ワニくんがみずをかけてひをあて
 て、木がそたうてしんじのかて、トイレが
 ふとんにきてねおれ
 なくなりました。



おすすめの本をしょうかいしよう
 ~どうぶつおう けっていせん!~ (ねこ) チーム

ずいせんしゃ

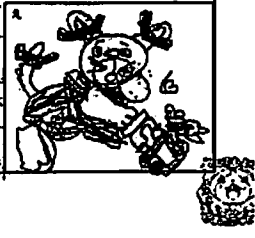
本のだいいい **ねこちゃんのしゃくり**

本をかいた人 **かくの えいこ**

おもな どうじょうじんぶつ
 ねこちゃん

おはなしのしょうかい

ねこちゃんしゃくりがと
 らすよくなまはしゃくりあどう
 やつてとめるがをまねして
 とめようとして
 もむりてしたそ
 こでいぬくんがいました
 いぬくんしゃくりが
 した。



おすすめの本をしょうかいしよう
 ~どうぶつおう けっていせん!~ (くま) チーム

ずいせんしゃ

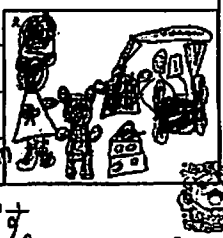
本のだいいい **おやすみくまたくん**

本をかいた人 **カズゴ、ストーン**

おもな どうじょうじんぶつ
 くまのがそく

おはなしのしょうかい

とけいのはとかなきましたくまたくん
 がねるじかんです。でも、くまたくん
 は、ねむくな10でまくらかんとんて
 いらちいますまは、
 こどりのベッドに、
 なっちゃんいますどん
 どんいろんなものが
 とんでいっちゃんのです。



読書の幅を広げる 仮説2

「どうぶつたんていでちょう」

「どうぶつたんていでちょう」

- ① 1つの動物に、1ページ、割り当ててある。
- ② 1ページに本の題名を10冊分書く。
- ③ 10冊分揃うと、コンプリート (完成)。探偵レベルが上がる。

(集めた動物の欄と名札にシールを貼る)

○魅力的な表紙、やってみたくなる仕組み



一人一冊持ち、「読書マラソン」のファイルとともにいつも手にとれるように、机の引き出しの中に置いておく。

自分が探偵になって、動物たちを探すという、楽しい活動。「ミッション!」として子どもたちに活動内容を知らせる。

○「読みの視点」を明確に

おはなしをよみながら、かんがえること

☆おもな どうじょうじんぶつは だれかな?
☆どんなことを したのかな?

「ちょうのつかいかた」

○本をよんだら、「どくしょマラソン」にかいて から、
「どうぶつたんていでちょう」にかきましょう。

○<おもなどうじょうじんぶつ>のところにかきましょう。

○いままでよんだ本をかいてもいいです。

○コンプリートしたら、せんせいのところにさしましょう。

今までの国語の学習を生かして物語を読む。
「おおきなかぶ」「けんかした山」
「うみへのながいたび」

○13の動物にスポットを当てる

みつけた!

1	ずらとそばしに
2	もりのキャンプ
3	ぐらりおやみちいまくん
4	おやみみフママムン
5	スラはおたんじらび
6	じでんしりころ
7	かばたしいんのひみつ
8	むてきのだらくん
9	ツッキーのおでんたく
10	くらんのはじめのてん

コンプリート!
おめでとう!

「くま・ねこ・ライオン・さる・ひつじ・ねずみ・うさぎ・おおかみ・わに・とり・うし・きつね・ぶた・その他」のそれぞれを1ページに書けるようにした。
☆動物を指定することにより、いつも手を伸ばさない本にも手が伸びる。幅広い読書ができた。

シリーズものは、一つだけ書くことができる。
☆いろいろな種類の本を読むようにさせた。

一つの動物の本を、10冊書く。
全部書けると「コンプリート!」

コンプリートしたところに、シールをはろう!

くま	<input checked="" type="checkbox"/>
ねこ	<input checked="" type="checkbox"/>
ライオン	<input type="checkbox"/>
さる	<input type="checkbox"/>
ひつじ	<input type="checkbox"/>
ねずみ	<input checked="" type="checkbox"/>
うさぎ	<input checked="" type="checkbox"/>
おおかみ	<input type="checkbox"/>
わに	<input type="checkbox"/>
とり	<input type="checkbox"/>
うし	<input type="checkbox"/>
きつね	<input type="checkbox"/>
ぶた	<input checked="" type="checkbox"/>
そのた	<input checked="" type="checkbox"/>

「コンプリート」すると、手帳と名札にシールが貼れ、「たんでいレベル」があがる。
☆目に見えてがんばりが分かり、名札にも貼ることで、友達にも見てもらうことができ、意欲につながった。

【年間通して取り組んだ活動】

① 全校で取り組んでいる「読書マラソン」の活用

- ・1枚に10冊の本を書くことができる。1年間に読んだ本の冊数で、「しづっこ読書認定」が受けられ、3月の全校集会で表彰される。(特級は、全校放送で氏名が紹介される。)低学年は、150冊読むと、特級になる。クラスで一番読んだ子は、586冊であった。(クラスの半数の児童は、特級であった。)

② 毎朝の読み聞かせの活用

- ・全校で取り組んでいる朝読書の時間を、読み聞かせの時間とし、いろいろなジャンルの読み聞かせを行った。また、「どうぶつたんでいてちょう」の活動を始めたころは、動物の登場してくる本を選んで紹介した。

- ・本は、学校図書館、佐倉市や他市町村の図書館で選んだ。
- ③ 手が届くところに本を置く
 - ・学校図書館から学級貸し出しをして、常時70冊くらいの本をクラス内に置いた。子どもたちの様子を見て、本は入れ替えた。新しい本を置くと、競うように読んでいた。
- ④ 週1回の読書の時間を確保する
 - ・クラス配当されている図書室の時間は、必ず行くようにした。また、休み時間にも行くことを声掛けした。

【アンケート結果（9月・2月）】（男子20名 女子13名 計33名）

（調査 9月）

- ① お話を聞くことが好きですか。
 とても好き…26名 好き…7名 あまり好きでない…0名
- ② お話に出てくる人や動物はなにか、考えながら読んでいますか。
 はい…24名 いいえ…9名
- ③ どんなお話だったか、伝えたことはありますか。
 はい…32名 いいえ…1名
- ④ 「読書マラソン」をがんばっていますか。
 すごくがんばっている…14名 がんばっている…14名
 あまりがんばっていない…5名
- ⑤ 学校の図書室へ行きますか。
 よく行く…10名 ときどき行く…20名 あまり行かない…3名
- ⑥ 佐倉市の図書館へ行きますか。
 よく行く…11名 ときどき行く…10名 あまり行かない…12名

（調査 2月）

- ① お話を聞くことが好きですか。
 とても好き…26名 好き…7名 あまり好きでない…0名
- ② お話に出てくる人や動物はなにか、考えながら読んでいますか。
 はい…25名 いいえ…8名
- ③ どんなお話だったか、伝えたことはありますか。
 はい…33名 いいえ…0名
- ④ 「読書マラソン」をがんばっていますか。
 すごくがんばっている…21名 がんばっている…10名
 あまりがんばっていない…2名
- ⑤ 学校の図書室へ行きますか。
 よく行く…10名 ときどき行く…22名 あまり行かない…1名
- ⑥ 佐倉市の図書館へ行きますか。
 よく行く…7名 ときどき行く…12名 あまり行かない…14名

成果と課題

仮説 1

適切な言語活動を設定し、単元計画を工夫すれば、「つきたい力」を身に付けさせることができるだろう。

- 「物語を紹介する」ことが目的であるが、「選ばれたい」という目的も子どもたちはもつこととなり、自ら物語をよく読み、分かりやすく書こうとする意欲につながった。
- 日ごろから、「インプットしたことをアウトプットすること（読んだ本について教師に話すこと）」を続けた。その活動により、「どう書いたらいいか分からない」という子どもも「どんなおはなしだった？」と会話することがきっかけに、本を紹介する文章を書くことができた。また、教師に話すという目的があることで、漠然と読むのではなく、主体的に読むことができた。
- ▲登場人物を意識して読んでいない子どもがまだいるので、その子どもには、声掛けが必要だった。

仮説 2

読みの視点を明確にすることで、児童が内容や要旨にせまりやすくなり、読みの広がりや深まりが期待できるだろう。

- 動物にスポットを当てることにより、普段読まない本にも手を伸ばすことができた。また、「探偵レベル」が上がり、手帳と名札にシールが増えることにより、意欲にもつながった。
- 紹介された本や学校図書館から貸し出しされた本を手が届くところに置くことにより、読書量が増えた。
- 読みの視点を明確にしたことにより、物語の内容について想像を広げながら読みことができた。
- ▲本の中であまり取り上げられていない動物もいたので、動物の選定をしっかりとよかった。
- ▲市の図書館へ行くには保護者の協力が必要だったので、市の図書館の紹介を保護者にもするとよかった。

学習の実際 < 2年生 >

単元名	わにのおじいさんのたからもの
つきたい力	登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読む力
言語活動	続き冒険話を作ろう
読みの視点	人柄が分かる表現を見付ける

単元計画～物語の大体から細部へ～

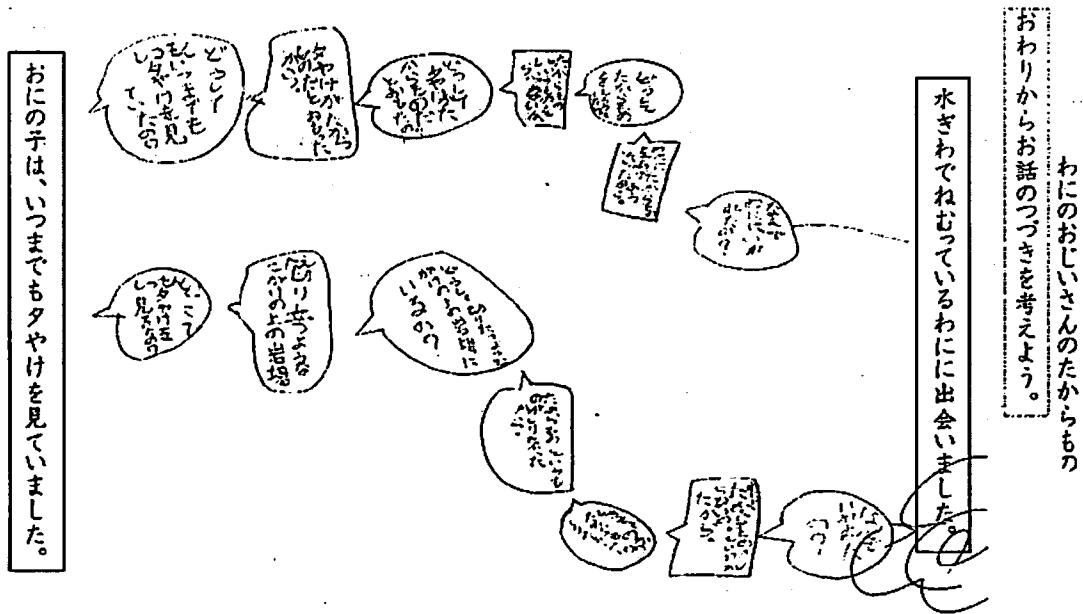
仮説 1

- ↓「わにのおじいさんのたからもの」学習計画↓
- お話のできごとを知ろう
- ①言葉の意味をかくにんしよう。
- ②とう場人ぶつについて考えよう。
(時・場しよ・中心人ぶつ・たい人ぶつ・語り手)
- 「はじめ」「中」「おわり」の三ぶこうせいを考えよう。
- ③ならべかえゲームで話のじゅんばんを考えよう。
- ④おわりから、お話のつながりを考えよう。
お話を一文でまとめよう。
- とう場人ぶつについて知ろう
- ⑤おにの子の人がらをしらべよう。
- ⑥おじいさんがたからものをあげた理由を考えよう。
- ⑦おもしろいひょうげんを見つけよう。
- ⑧タヤけのひょうげんについて考えよう。
- ⑨どんなお話だったのかふりかえろう。
- つづきぼうけん話を書こう
- ⑩⑪⑫「すてきひょうげんブック」をもって
つづきぼうけん話を書こう。
- ⑬五年生にしようかいしよう。

I 話の全体をとらえる

『国語授業の教科書 白石 範孝著』を参考に学習計画を立てた。

- ①言葉の意味を辞書などで確認していった。
- ②三部構成につながる「時(季節)」「場所」を確認する。今まで児童が曖昧になっていた「中心人物」「対人物」などの物語の用語をおさえた。
- ③ならべかえゲームで、話のあらすじをつかむ。物語を構成する主要な文を短冊にし、それらを順番通りに並べられるか確かめた。
- ④「逆思考の読み」で、物語の後ろから因果関係をとらえた。



II 文章表現の細部について、読み進める

- ⑤⑥「おにの子がしたこと・考えたこと」に線を引く。その中で、「おにの子の人柄が分かる表現」を「おじいさんがたからものをあげた理由」としてとらえていった。
- ⑦「おもしろい表現（表現の工夫）」で、「季節」「くりかえし」「はんたいことば」「たとえ」の表現に注目させた。続き話に生かせるよう、表現を学習したワークシートを「すてきひょうげんブック」に書き留めていった。
- ⑧本時では、おにの子が夕やけを見る場面を取り上げた。夕やけの美しさが伝わってくる文を選んで交流する。「～はどうつくしい」「思わず」「世界中でいちばん」など表現の工夫に気付く。



① わにのおじいさんにまわって、おにの子はおじいさんのせなかの地図を紙に描きました。

② わにのおじいさんにまわって、おにの子はおじいさんのせなかの地図を紙に描きました。

③ わにのおじいさんにまわって、おにの子はおじいさんのせなかの地図を紙に描きました。

④ わにのおじいさんにまわって、おにの子はおじいさんのせなかの地図を紙に描きました。

⑤ わにのおじいさんにまわって、おにの子はおじいさんのせなかの地図を紙に描きました。

⑥ わにのおじいさんにまわって、おにの子はおじいさんのせなかの地図を紙に描きました。

⑦ わにのおじいさんにまわって、おにの子はおじいさんのせなかの地図を紙に描きました。

⑧ わにのおじいさんにまわって、おにの子はおじいさんのせなかの地図を紙に描きました。

⑨ わにのおじいさんにまわって、おにの子はおじいさんのせなかの地図を紙に描きました。

⑩ わにのおじいさんにまわって、おにの子はおじいさんのせなかの地図を紙に描きました。

くりかえしのひょうげん

もとの文

そして、しばらくまじまじとおにの子のかおを見てい
ましたが、やがて、そのしわしわくちやくちやくちのかおで、に
こつとしました。

しかけ文

そして、しばらくまじまじとおにの子のかおを見ていま
したが、やがて、そのしわくちやくちのかおで、にこつとしま
した。

おじいさんじゃ
なくなっちゃった!

くりかえしたほうが
かんじが出るよ!

びちゃびちゃ
ぐちゃぐちゃ

ふわふわ
もこもこ

ほんたいことば

しかけ文

わにのおじいさんに言われて、おにの子はおじいさんのせなかのしわのない
地図を、しわ紙にかきうつしました。

もとの文

わにのおじいさんに言われて、おにの子はおじいさんのせなかのしわ地図を、
しわのない紙にかきうつしました。

おじいさんぼく
ない。

読む人が
たのしい!

ようすが
よくわかる。

はっぱだと、ちくちく
はっぱのふとんだと、
ふかふか。

ふとんでは、あったかいけど
はっぱだとさむそう。

はっぱがつみあがっている
かんじ。

たとえ

しかけ文

「では、行っておいで。わたしは、このはっぱでもうひとねむりする。」

もとの文

「では、行っておいで。わたしは、このはっぱのふとんでもうひとねむりする。」

音読の仕方の工夫 仮説 1

学習を進めていくにあたり、全員が教材文の内容を把握できるように、音読の仕方の工夫を取り入れた。

『「考える音読」の授業 文学アイデア50 桂 聖 編著』を参考にした。以下、枠内は引用。

「たけのこ読み」

自分の読みたい文を決めて音読することで、言葉のまとまりを意識して読めるようになります。

(たけのこ読みのやり方)

- ・マルごとに読む人が交代する。
- ・読みたい文を選び、その文になると立って音読する。何度挑戦してもよい。
- ・クラスのみみんなで最後まで続けなければならない。だれもいないときには様子を見て、必ずだれかが音読する。

たけのこ読みをすることで、友達と読むことを楽しむことができた。そのうちに、音読の苦手な児童が言葉のまとまりをとらえられるようになってきた。また、自分や友達の好きな場面を意識しながら、読んでいた。

「ぼく・わたし読み」

登場人物に「ぼく」や「わたし」を入れて音読することで、視点人物を見分けることができます。

視点人物は、「わにのおじいさん」なのか？「おにの子」なのか？題名から、おじいさんが視点人物と勘違いしそうになる。そこで、「おにの子」を「ぼく」に変えて読んでみた。

児童は、「わにのおじいさん」を「ぼく（わし）」に変えた違和感や、中心人物の定義「お話の中でいちばん心が変わった人」「語り手がずっと追っていく人」から「おにの子」が中心人物ととらえることができた。

「挿絵提示読み」

挿絵を見せながら、紙芝居のように音読することで、場面の分かれ目をつかむことができます。

「まだ、早い。」「今だよ！」のような声が入るようになり、本文の描写と挿絵を対応させて読むようになった。



《挿絵提示読み》

ぼく・わたし読み

思わず、おにの子はぼうしをとりました。
←

思わず、ぼくはぼうしをとりました。

おにの子は、いつまでも夕やけを見ました。
←

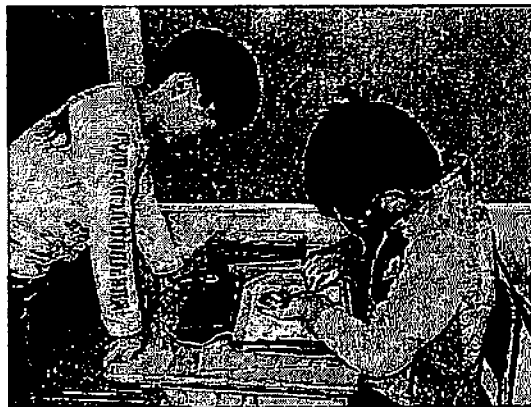
ぼくは、いつまでも夕やけを見ました。

目的意識をもてる交流活動 仮説1

本単元の学習のゴールとして、続き冒険話を書くことを設定した。また、書き上げた話を5年生に紹介する交流活動を行った。兄弟学年ということで、多少の交流があったため、程良い緊張感を持ち学習を進めることができた。学習の最初にゴールについて話しておいたため、「気を付けて書こう。」「しっかり書き上げないと。」という気持ちをもつことができた。



《5年生に読み聞かせている》



《5年生に感想を書いてもらう》

【5年生の感想から】

- ・「さくらがひらひらまいちっています。」のところでは、時がたち、きせつがかわっていることがわかりました。
- ・自分で作った話は、教科書に書いてあることを見本にして書けていました。
- ・「こおりになってしまいそうです。」というところがすごくさむいかんじで表現が上手。

(原文のまま)

読みの視点を与える 仮説2

本単元では、「人物の人柄が分かる表現」「表現の工夫」の二点から教材文を読み進め、「すてきひょうげんブック」としてまとめていった。朝読書や授業での並行読書の際にも、この二点に注目して、付箋を貼りながら、書きまとめていった。続き話を書く際、教材文で学習したことを生かせるようにした。本時では、クライマックスの場面を扱い、「おにの子がしたこと・思ったこと」から、「夕やけの美しさ」が児童に伝わり、おにの子が夕やけを宝物と思った気持ち（人柄）を読み取れると考えた。また、続き話に生かせるよう、別の写真を提示し、本文に出てくる表現の工夫を真似して書く活動を行った。



《本文に出てくる表現の工夫を真似して書く》

成果と課題

仮説 1

適切な言語活動を設定し、単元計画を工夫すれば、「つけたい力」を身に付けさせることができるだろう。

- 音読の仕方を工夫したことで、児童が飽きずに読むことができ、物語の内容をしっかりとらえることができた。
- 物語の大体から細部に読み進めていったことにより、苦手な児童も基本を同じくして「読み」を深め合うことができた。
- 5年生に褒められ、良い気分学習を終えることができ、学習への意欲が高まった。
- ▲一斉に読み進めていっても、苦手な児童は進んで書くことが難しいので、工夫が必要である。
- ▲続き話がスムーズに書けないと思い、「すてきひょうげんブック」に書き留めたが、言語活動が複数ある形になってしまった。

仮説 2

読みの視点を明確にすることで、児童が内容や要旨にせまりやすくなり、読みの広がりや深まりが期待できるだろう。

- 「読みの視点」を与えたことにより、教材文・並行読書にしても、児童がポイントをしばって読むことができた。
- 並行読書の本に児童が読みながら貼った付箋をそのままにしておいたため、苦手な児童も読みの視点に着目することができた。
- 内容の面白さだけでなく、表現の工夫に気が付く児童が増えた。
- ▲「読みの視点」を与えてはみたが、判別するのはなかなか難しく見当違いの箇所を書いている児童がいた。
- ▲並行読書にふさわしい選書が難しかった。全て読み、内容を把握することが難しく、児童に適切なアドバイスをすることができなかった。

児童のアンケートから

7月19日 (男子11名 女子12名 計23名)

11月20日 (男子11名 女子12名 計23名)

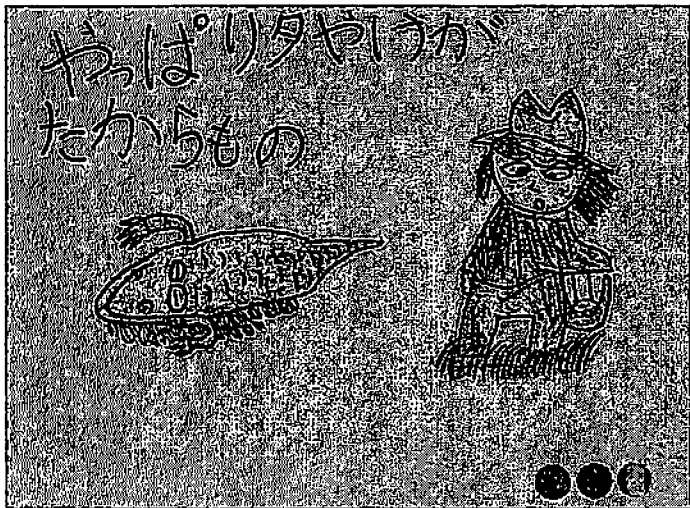
学習前	学習後
①お話を書いていて、楽しいことはどんなことですか。	
話を考える…8名 特になし…8名 友達の話を読む…4名 挿絵を描く…2名 どんな終わりにするか考える…1名	どんな話にするか考える…8名 特になし…6名 できたお話を紹介する…5名 長い文章を書く…1名 主人公らしさを考える…1名 褒めてもらえる…2名

②お話を書いていて、困ることはどんなことですか。	
特になし…13名 書く順番…2名 漢字や片仮名…1名 段落…1名 作文用紙の使い方…1名 未記入…5名	特になし…18名 句読点…2名 かぎかっこ…2名 書いているうちに分からなくなる…1名
③お話を書くとき、どんなことに気をつけていますか。(複数回答可)	
文字の間違い…9名 句読点…7名 とくになし…4名 文字の見やすさ…1名 かぎかっこ…1名 はじめ・なか・おわり…1名	句読点…9名 はんたいことば…9名 くりかえし…8名 人柄・性格…8名 たとえ…6名 三部構成…6名 かぎかっこ…6名 季節…5名

【5年生に読んでもらって思ったこと】

- 褒めてくれたのでうれしかった……………10名
- 聞いてもらってうれしかった……………5名
- 最後まで聞いてくれた……………2名
- 自信がついた……………1名
- 「できたな」という気持ちがあった………1名
- 聞いてもらいたいと思うようになった…1名
- 国語が好きになった……………1名

児童の続き話から



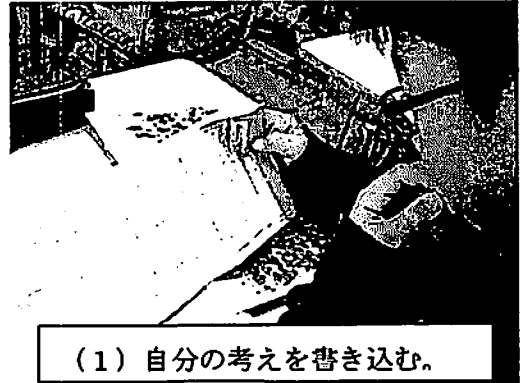
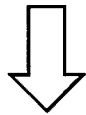
交流活動の工夫 仮説 1

児童の実態として、自分で作ったものを推薦したり、本の内容を伝え合ったりする活動を好む児童が少なかった。そこで今回は、同じ本を読んだグループで読みの視点（観点）①人物関係図、②美しい一文（情景描写）、③クライマックス、④主題）ごとに話し合う時間を設定し、スモールステップでライブラリーナビを完成させていくことにした。自分で読みを深める時間を大切に、自分で観点ごとに読み取ったことをノートに書き、その後に同じ作品のグループのメンバーで集まり、全文シートに自分の読みを付箋に書き込み貼っていった。貼った付箋を読みの交流の手立てとして読みを深めていった。

その後、違う作品をまとめた友達と交流した。

(1) 個で活動

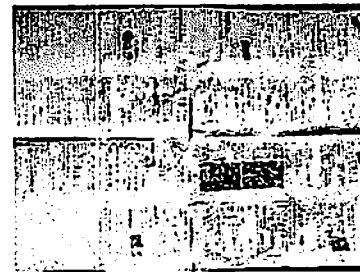
自分の選んだ本に考えを書き込みながら、観点ごとにノートにまとめる。



(1) 自分の考えを書き込む。

(2) グループ交流 その1

同じ物語のグループのメンバーで集まり、全文シートに自分で考えた文や理由を書いた付箋を貼っていく。



全文シート
作品の文全部を、1枚にまとめて用意した。

- ・なぜこの文にしたのか、理由を話し合ったり、意見交換をしたりして、考えを深めることができた。
- ・自分の意見を①の時点でもっているの、積極的に意見交換をすることができていた。
- ・下位の児童は友達の意見を聞いたり、確認し合ったりすることで③での活動に自信をもって取り組めた。



(3) 個でライブラリーナビの作成

各自でライブラリーナビにまとめる。



(4) グループ交流 その2

各自で作ったライブラリーナビをもって、違う作品の友達と交流。



(2) 班で意見を出し合い1枚の紙の中に書き入れ、読みを深めていく。

読みの視点（観点）の選定 仮説2

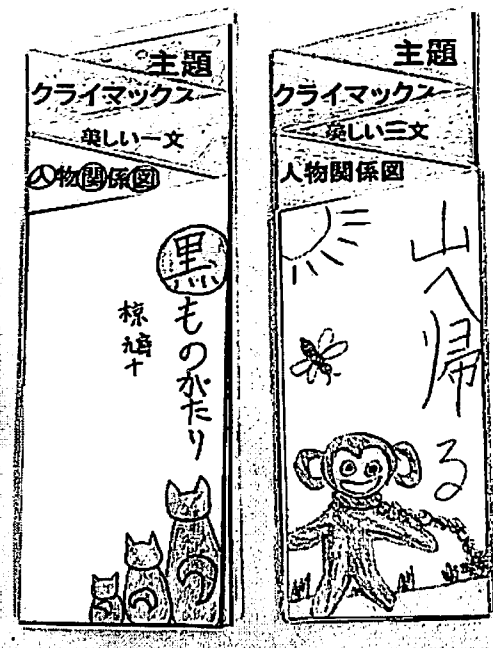
何をライブラリーナビの中でまとめたか児童にアンケートを取り、まとめる観点の参考とした。

「大造じいさんとがん」と「自分で選んだ椋鳩十作品」については、「クライマックス」を中心に作品を読み取らせたいと考えた。今回は、読みの観点を「人物関係図」「美しい一文（情景描写）」「クライマックス」「主題」にしぼった。

山場
物語の四つの部（冒頭・展開・山場・結末）の中で最も緊迫した場面である。

クライマックス
山場の中に最高潮の点として存在し、物語において、感想や緊張が最も高まる部分。

主題
作品の中にある作者の思想内容のこと。
～『国語授業を変える「用語」』 白石 範孝 編著～



《ライブラリーナビを折りたたんだもの》(完成)

《ライブラリーナビ（完成）》

単元計画に沿って、1観点ずつ埋めていった。読みの観点ごと全て記入した後、同じグループの友達や、他の作品を選んだ友達と紹介し合い、感想を書き合った。

並行読書した本からの選定 仮説 2

教科書では、心情曲線と作品の構造から「山場」について考えた。そして、山場から発展し、「クライマックス」を読みの中心にしていった。

椋鳩十の作品を教室に置いておき、児童がすぐ手に取れる環境を整えた。佐倉市図書館を活用し、60冊程度の用意をした。

「大造じいさんとがん」を教材文として選び、椋鳩十の「大造じいさんとがん」以外の作品60冊程度の中から、ライブラリーナビをまとめる作品を選定することにした。児童が「おすすめシール」を多く貼った作品の中に、ライブラリーナビの観点が存在するかを、教師が読んで確かめたうえで7作品にしぼった。

自分が読んだ作品の欄にシールを貼る。おすすめ、ふつう、あんまりのシールを貼る。

《椋鳩十作品 感想シール表》

「大造じいさんとがん」の学習が始まる前から、椋鳩十作品と一緒に教室後方に掲示した。

読んだ後に
「おすすめ」
「ふつう」
「あんまり」のシールを貼る

成果と課題

仮説1

適切な言語活動を設定し、単元計画を工夫すれば、「つけたい力」を身に付けさせることができるだろう。

- ライブラリーナビを効果的に活用し、読み深めることができた。並行読書の読みでも、ライブラリーナビの進め方を生かして、作品の魅力をまとめることができた。
- どう読み取るのか分からない児童でも、観点ごとに読みを交流することにより、自分の読みを構築することができ、友達に紹介することができた。
- まとめる内容により、ABワンセット方式と入れ子式を使い分けたことが効果的であった。
- 自分で選んだ本の読みでも、前に学習した各観点の読みをいかしてまとめることができた。スモールステップで取り組んだことがよかった。
- ▲入れ子式で学習を進めた時は、時間に余裕がなかった。読む範囲をしぼるなどの工夫が必要であった。

仮説2

読みの視点を明確にすることで、児童が内容や要旨にせまりやすくなり、読みの広がりや深まりが期待できるだろう。

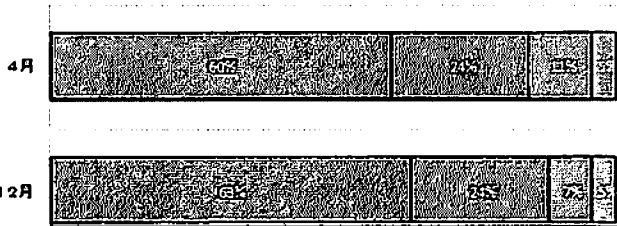
- 椋鳩十の作品の選定やライブラリーナビにまとめる観点を、児童の意見や思いから決定することを知らせたため、意欲的に読むことができた。
- 「読みの視点」を①人物関係図、②美しい一文（情景描写）、③クライマックス、④主題、の4つにしぼることで、児童が進んで読むことができた。
- ▲意欲的に並行読書に取り組むためには、一人一冊以上の本を確保する必要があった。
- ▲並行読書の進度に差が出てしまったので、苦手な児童には、読解力に合わせた本を紹介すると取り組み易かったかも知れない。

成果と課題

アンケート結果と考察

物語文を読みたいと思いますか？

思う どちらかといえば思う どちらかといえば思わない 思わない



説明文を読みたいと思いますか？

思う どちらかといえば思う どちらかといえば思わない 思わない



国語の授業で自分の書いたもの、作ったものを紹介したいですか？

はい いいえ



《考察》

- ・物語文を好む児童が、全体的に増えたことが分かる。単元計画の工夫により、学習についての見通しをもてたことが大きいと考える。
- ・説明文を読みたい・どちらかといえば読みたいと答えた児童が増えた。構成や接続語に注目して、読むことができるようになってきた成果だと考える。
- ・良い作品ができたにもかかわらず、約3分の1の児童は、紹介することに抵抗がある。今後の課題としたい。

成果

《仮説1》

- ・単元のゴールを目指して、頑張ることができる児童が増えた。
- ・単元計画を立てる際に、始めに内容の大体をとらえる活動を行うことで、最後まで読みの視点を意識することができた。
- ・単元計画を通して、交流するメンバーを工夫することで、常に相手意識をもって読み進めることができた。
- ・「つきたい力」に合った言語活動を設定することで、読みの視点がはっきりし、読みを深めることができた。

《仮説2》

- ・読みの視点を明確にすることにより、進んで学習にも読書にも取り組むことができた。
- ・児童が手に取りやすい場所に並行読書の本を置いたため、普段読まない本も手に取るようになり、読書の幅が広がった。

課題

《仮説1》

- ・「つきたい力」に合った言語活動や単元計画をできるだけシンプルに立てていくべきである。

《仮説2》

- ・個々の読解力により並行読書の進度に差が出てしまった。児童一人一人の読解力に合わせて本を提示するために、学校図書館司書との更なる連携が必要になる。
- ・意欲的に並行読書に取り組むためには、一人一冊の本を確保する必要がある。
- ・本の選択について、教師が把握しきれなかったり、全て読めていなかったりするとアドバイスが難しい。